

研究・調査報告書

報告書番号	担当
480	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学
題名 (原題/訳)	
Alcohol intake and risk of coronary heart disease in younger, middle-aged, and older adults 中年、壮年、高年での飲酒と冠疾患リスクとの関係	
執筆者	
Hvidtfeldt UA, Tolstrup JS, Jakobsen MU, Heitmann BL, Grønbaek M, O'Reilly E, Bälter K, Goldbourt U, Hallmans G, Knekt P, Liu S, Pereira M, Pietinen P, Spiegelman D, Stevens J, Virtamo J, Willett WC, Rimm EB, Ascherio A.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Circulation. 2010 Apr 13;121(14):1589-97.	
キーワード	
年齢群別、アルコール摂取、冠動脈疾患、疫学	
要 旨	
目的： 少量から中等量の飲酒は冠動脈疾患のリスクを低下させる。飲酒による予防効果は中年および高年に限定される可能性がある。40歳未満の男性および50歳未満の女性では冠動脈疾患発症率は低い。従って統計学的検出力不足のためこれまでのコホート研究では中年層での飲酒と冠動脈疾患リスクの検討はめったに行われなかった。本研究では飲酒の冠動脈疾患予防効果は年齢に依存するか否かを検討した。	
方法： 北米およびヨーロッパで実施された8つの前向き研究の結果を集積し、追跡開始時に心血管疾患、糖尿病、癌疾患がない女性192,067人と男性74,919人について検討した。1日の平均飲酒量、食品摂取頻度、食餌療法歴について追跡開始時に質問票を用いて調査した。	
結果： 飲酒と冠動脈疾患リスクとの間の負の関連は全ての年齢群で認められた。非飲酒男性と比べて中等量飲酒男性(5.0~29.9 g/日)の39~50歳、50~59歳、および60歳以上のハザード比は0.58 (95%信頼区間[CI], 0.36~0.93), 0.72 (95% CI, 0.60~0.86)、および0.85 (95%CI, 0.75~0.97)であった。しかし年齢が低いと非飲酒者と中等量飲酒者の間の発症率の差は比較的小さかった(発症率差, 39~50歳では45/100,000; 90%CI, 8~84; 50~59歳では64/100,000; 90% CI, 24~102; 60歳以上では89/100,000; 90% CI, 44~140)。女性においても同様のことが認められた。	
結論： 飲酒は比較的若い世代においても冠動脈疾患リスクを低下させたが、リスク低下の程度はより高齢の群に比べて小さかった。	